

1、ディレクトフォース

東京に到着し、まず私たちが訪問させていただいたのは笹川平和財団ビルです。東京は仙台と比較にならないほど暑く、外を歩くのも大変でしたが建物内は冷房が効いていて涼しかったです。中に入ると 11 階の国際会議場に案内していただきました。国際会議場は、大きなホールのようなところに椅子がならべてありました。

最初は元 IEA 事務局長田中信男さんのご講演でした。IEA は international energy agency、国際エネルギー機関のことで、エネルギーに関する調査や統計作製を主に行っているそうです。お話を聞いていると、国際的な話が多く、田中さんがすごい方なのだと改めて実感しました。

次に 15 分×4 クールでグループディスカッションを行いました。私たちがお話を聞いた方のほとんどが外国の大学を出ていて、これから国際社会で活躍するには英語がとても重要だということをお話していただきました。教科書英語は口先だけの英語で外国に行っても役に立たないと聞いたことがあります。話すのは良くても、書くときにはきちんとした英語を知らないといけなないので教科書の英語も重要で、高校生のわたしたちが英語力をつけるには教科書の英文の音読をすることが大切だということをお話していただきました。もっと英語ががんばります。

2、企業訪問

ディレクトフォースが終わってからは班ごとの行動だったので、私たちの班は東京駅に戻って昼食をとり訪問先のアステラス製薬本社へと向かいました。アステラス製薬本社は日本橋にあり、東京駅から徒歩 15 分程で着くということと、実際に東京を歩いて東京を感じたい、ということから私たちは事前準備の段階で地下鉄は使わず徒歩でアステラス製薬までいこう、と決めていました。アステラス製薬まで歩く途中に三越の本店や、教科書でしか見たことがなかった日本銀行を見つけ、私たちはとても盛り上がっていました。少し道に迷いましたが 20 分ほどで無事アステラス製薬に到着しました。アステラス製薬の建物は大きくて、きれいで外から見ただけでも立派でした。中に入り、受付の方に仙台第二高等学校の 9 名です、と言うと、お待ちしておりました、こちらをおつけ下さい、と優しく対応してくださりバーコードなどが書かれたネームプレートのようなものを渡されました。このバーコードなんだろうね、と班のみんなと話していましたが、その答えはすぐにわかりました。会社に入るところに地下鉄の改札のようなものがあり、バーコードをセンサーにタッチすると中に入れる、というものでした。エレベーターを降りると、私たちはまた感動しました。そこには会社とは思えないほどの開放感と清潔感につつまれた空間が広がっていたからです。

そして、私たちの担当をして下さる方と合流しました。お話を聞く前にまず私たちの自己紹介をしました。大人の前で自己紹介するということが緊張しましたが、担当の方が、1 年生なのにしっかりしてるねと褒めてくださって嬉しかったです。そしてアステラス製薬についてのお話をうかがいました。アステラス製薬は 1923 年に設立され、医薬品の製造、販売及び輸出入を行っている、とのことでした。

次に医薬品についてのお話をうかがいました。まずおっしゃったのは、「医薬品は諸刃の剣」という言葉でした。医薬品は病気などに効くプラスの効果もあれば、副作用などマイナスの効果が生じる可能性もある、という意味だそうです。だからそのマイナスの効果をできるだけ減らせるように研究、開発を行っていると聞きました。そのような視点から考えているとは驚きました。また、医薬品は一般用医薬品(薬局などで売っていて、私たちが自由に手に入れることができるもの)と医療用医薬品(病院に行かないともらえないもの)の 2 つに分けることができ、アステラス製薬では医療用医薬品の開発をしているということもわかりました。ほかにも、ひとつの薬ができるまでに様々な工程(研究→開発→生産→販売)を経て、患者さんに届けられるまで 9~17 年もかかること、現在の医薬品市場は 90 兆円をこえていて、そのうち特にアジアやアフリカの国々が高成長し

ていることなどたくさんを学ぶことができ、医薬品についていろいろ考えるいい機会となりました。

最後は私たちからの質問の時間をとっていただきました。班の人が質問事項を分かりやすくパソコンでまとめて印刷して持ってきてくれたのでスムーズに質問することができました。

そのうちのいくつかを紹介します。

Q、新薬を作るとき、まず何を行うのですか？

A、たんぱく質の働きを調べます。病気の原因のほとんどは酵素やホルモンといったタンパク質なので、それらのタンパク質の働きを調べることで薬をつくるヒントとなるからです。

Q、薬の開発は、個人で行うのですか、グループで行うのですか？

A、主にグループでおこなっています。みんなで意見を出し合ったり、役割分担をすることで効率的に開発を行うことができますと思います。

Q、まだ病気の原因などが解明されておらず、完全に治す薬がない病気にはどんなものがありますか？

A、アルツハイマーや特定のガンなどがあります。このようなものは満たされていない医療ニーズ、ということでアンメット・ニーズといわれています。

アステラス製薬の方はみなさん私たちに優しく、丁寧に接してくださり、帰るときも外まで出て見送ってくださいました。また、アステラス製薬本社からホテルまでの最短ルートをおしえてくださり、駅までの地図をプリントアウトして私たちに持たせていただき感謝しています。(実は、方向音痴な私が前を歩いたせいで地図があったのに道に迷ったことは秘密です。(笑))

アステラス製薬のみなさん、本当にありがとうございました。

3、OB、OG との座談会

上に書いたとおり企業訪問のあと道に迷ってしまい、少し(けっこう？15分くらい)ホテルの集合時間に遅れてしまいましたが、ホテルにつきました。ホテルの部屋から夕食会場に行くのも迷いに迷いましたがなんとか着きました。夕食をすませると二高 OB、OG との座談会が始まりました。東大や一橋大などの有名大学に通う先輩方から高校のときの様子や大学についてのお話をたくさん聞くことができました。大学受験は得意教科、苦手教科がはっきりしているよりも全教科同じくらいのほうがいいから1年生のうちから苦手教科はしっかりやるように、と言われたので苦手教科を遠ざけないでしっかり取り組もうと思いました。先輩方のお話でこれからの将来について考えることができ、少し興味も湧いてきたのでお話を聞いて良かったです。

4、東京大学 OC

2日目は東大のオープンキャンパスに参加しました。東大の敷地に入ると、大きな建物がいっぱい並んでいてひとつの町のような感じでした。建物は歴史を感じさせるような古い建物から、最新のガラス張りの建物までさまざまでした。また、東大の中にはスタバやドトール、タリーズなどのカフェやレストラン、コンビニもたくさんあり驚きました。

私は友達と定員制企画の薬学部の本部説明会に参加しました。大学の敷地が広すぎて本部説明会が行われる安田講堂を探すのも大変でした。受付をすませ中に入り、説明会を受けました。教授のような方が薬学部について説明してくださいました。

東大に行って東大を肌で感じられたことはとても貴重なことだと思うので行くことができ良かったです。

2日間という短い時間ではあったけれど、いろいろなことを学び、考え、とても充実した2日間を過ごすことができました。

私たちのためにこのような機会を作ってくくださった笹川平和財団のみなさん、アステラス製薬のみなさん、OB、OGのみなさん、東大のみなさん、そして先生方。本当に感謝しています。ありがとうございました。